

一一ノ二三、江戸時代の詩歌

解説 江戸時代、笠置寺は衰退に向かつており、弥勒信仰は世間の関心を引き付ける力をなくしていた。そのため草創期の笠置寺についてうたった詩文は少なく、一方元弘の役が関心を集めるにつれ、笠置山を舞台にしたエピソードを取り上げたものが多い。

金本相観 文政一二年(1829年)〜明治四年(1871年)

幕末の儒者、勤皇家

自_二笠置駅_一舟下_二木津川_一十里有_二楠木公馬石_一
伝元弘元年九月公在_二赤阪城_一聞_二笠置之急_一
一並_レ騎到_レ此而笠置既_レ失帝所_レ在公乃拭_レ涕而去

風雨東来日色昏回_二膽笠嶺_一輒鎖_レ魂舟人指点爛斑薜此是忠臣古淚
落日不_レ求_二奇巧_一而自能動_レ人咏懷絕句

大抵 皆然

(樂山堂詩鈔 明治二年)

加納諸平 文化三年(1806年)〜安政四年(1857年)

紀州藩の国学所総裁となった人物

晩秋過古戰場

笠置山あすのしぐれをさきだててみだる_レ雲にあらし吹くなり

(国歌標釈 明治三二年)

月譚道澄 月潭(一六三六年〜一七一三年)は江戸前期の黄檗宗の僧

原本は笠置寺所蔵

笠置山十題

笠置名山

誰将一笠置巖頭 宝地創開歲月悠 水繞山圍兜率境 何殊剌縣石城丘

泉河流水

千尺断崖遮鳥道 一溪流水濯塵心 古今治乱興亡事 付與灘頭響々音

弥勒石像

宝石曾經劫燒災 聖容不見只崔嵬 了知真相原無相 許汝親瞻慈氏來

般若台院

六百琅函放宝光 甚深般若鎮靈場 神龍何処請移去 空見山台野草芳

醍皇旧跡

帝輦曾停此石房 愁聞四海逆波揚 奚 料仏聖精修地 一旦變為戰鬪場
解脫遺蹤

形闕廉前曾闡講 白雲堆裏水韜光 誠知高德伝千古 草木猶薰解脫香
千手洞窟

千手窟中世界寬 重々刹海現毫瑞 神僧棲止知何氏 惹得天花落滿壇
正月堂基

忠師昔日祝堯仁 伝得率陀勝軌眞 堂廢無人修此法 巖梅獨綻歲朝春
孤村隔水

春深花木覆村蹊 隔水遙看凶画濟 日暮東征投宿客 頻呼沙艇度前溪
恠石疊空

横者如船峙似峯 奇巖恠石疊重々 巨靈分破鴈山境 移置此間秀氣鍾

重遊笠置山作並序

笠嶠重登興軫長 未問醜皇停蹕処 先尋慶老隱蹤場 溪山画出真如境
花木釀成解脫香 石壁巉巖奇恠甚 卻疑身到鴈台陽

(巖居稿 元禄一七年)

林羅山 天正十一年(1583年)〜明暦二年(1657年)

家康、秀忠、家光、家綱の四代の將軍に仕え、侍講として儒書や史書を講ず

笠置ノ幸(十幸之中)

玉址潜カニ逃ル赤泉ノ裏 群僚大跳ス径蹊ノ間タ 元弘ノ天體雖トモ如シト笠ノ 平賊傾翻ス
笠置ノ山

(羅山林先生詩集)

藤田東湖 文化三年(1806年)〜安政二年(1855年)

水戸藩九代藩主徳川斉昭の側近として、藩政の中枢に参画 水戸学の中心人物

詠史

我慕三楠夫子ニ 雄略古今無 誓建ニ回天業ニ 感激忘ニ其軀ニ 廟堂遂無レ筭
乾坤忠義孤 空留一片氣 凜凜不レ可レ誣

(京華名勝集卷三)

梁川 星巖 寛政元年(1789年)〜安政五年(1858年)

江戸時代後期の漢詩人。夫人の紅蘭も女流詩人として有名

舟下二木津川一

百里川程一葉舟 荒烟寒樹水悠々 蓬窓依約笠山影 送到二淀城二青未レ休

(西征集 明治四四年)

頼山陽

安永九年(1781年)〜天保三年(1832年) 幼少時より詩文の才があり、歴史に深い興味 幕末から明治のベストセラー「日本外史」の著者として笠置寺興隆に大きく寄与。

陪遊笠置山記の著者である津藩の儒者斎藤拙堂と交友あり。

笠置山。元弘の行在所を觀て作れる歌

巨靈手拔地骨起	怪岳万尺爭層累	堅者為櫓横為壇	天作高城淹天子
元弘之元秋八月	龍旂憑險事倉卒	黠賊蟻附縁間道	一敗蒙塵更播越
普天何人非王臣	誰赴急難来竭蹶	猶頼祖宗在天誘帝心	夢賚異材是良弼
君在臣敢死	臣在賊滅可指日	唯願君心終始一	笠山南望芳埜山
再狩之駕不復還	君王唯忘在此厄	九仞一簣眞可惜	吾來慷慨憶當時
時認石ノ鑿礎基	藤公伝勅楠公跪	此処是耶未可知	居民為我指村墟
為賊郷導実由渠	至今猶不通婚嫁	童孺唾罵斥如奴	嗚呼蚩氓猶能弁大義
寄語人間士大夫			

文政十二年四月四日、門人大倉笠山の案内にて登山。翌日作。

(山陽真蹟歌帳 明治三九年)

その他

誹風柳多留 以下の句はいずれも天保年間、江戸末期の作である。

笠が破れて後醍醐も袖の雨 江山

(誹風柳多留全集一一 昭和五三年)

笠置落子諸侯も袖に一と時雨 鳥水

(誹風柳多留全集一一 昭和五三年)

御不運さ笠置で雨を凌ぎかね

御たまりはないと笠置の御言のり

にげ足に笠置の城を一首よみ

(川柳大辞典 昭和三七年)

太平記を読みて 経平

よむたびにいつも袂をぬらすかなかさぎの山の雨の夜あらし

(大江戸倭歌集。鶴園蔵が文政ころより見聞のままに書き留めておいたものを安政七年(一八六〇年)に発刊)